

集落支援員だより

第7号

発行者 東和地域集落支援員
連絡先 66-2490
発行日 平成31年3月27日



地域を思う

今回は、太田鷹二行政区の佐藤徳江さんにひと言いただきました。



太田鷹二行政区
佐藤 徳江さん

身近な地域づくり

隣近所が疎遠になり、昔のように茶飲みして歩かなくなった今日ではあるが、世間話(情報交換)も考えようによっては、地域づくりの環境ではないだろうか？

「あの人、入院したんだって」「このごろ顔見ないけど…」これも一つの安否確認かもしれない。(そう思うのは私だけかな)

『世間話↓安否確認↓お互いの助け合い↓地域づくり』

東和地域には、今二十四の「いきいきサロン」が開設され、そのサロン毎に、特色のある内容で毎月活動しています。

健康体操・講話・ゲーム・ゴルフ・温泉・花見・ケーキ作りなど、一年

の計画を皆で立て、当番制でやっております。もちろん世間話(情報交換)が一番重要です。
新情報により「じゃ、来月誘ってみて」「心配だから電話してみようか」などとなり、地域の輪が深まることは、身近な地域づくりではないかと思えます。

佐藤さん、「世間話で身近な地域づくり」をこれからもぜひ続けてください。女性ならではの、貴重なご意見をありがとうございました。

おいしい野菜を作るために

EMボカシ肥の作り方講習会

去る二月二十一日、針道の服部新聞店駐車場において、「家庭菜園と環境浄化を進める会」主催による『EMボカシ肥の作り方講習会』が行われました。

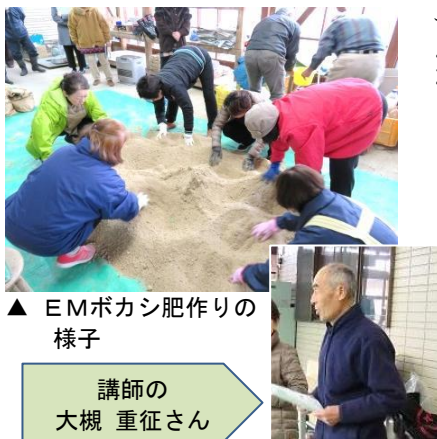
講習会には二十一名の参加者が集まり、針道の大槻重征さんを講師に、EM菌を使った活性液の作り方、ボカシ作り、米のとき汁発酵液の作

り方を教わりました。

EM菌とは、自然界にいる微生物の中で有機物を発酵したり、太陽エネルギーを固定したりする微生物の総称です。これを使うことにより、畑の土壌改良・汚水の浄化・作物の活性化などが期待できるそうです。

特に、ジャガイモやトウモロコシがおいしくできるそうなので、参加者は、EMボカシ肥を使った詳しい作り方を大槻さんに教わっていました。

環境にやさしいEMボカシ肥を使って、おいしい野菜を作ってみませんか。



▲ EMボカシ肥作りの様子

講師の
大槻 重征さん

十年間の地域活動を終える

国士館大学西谷学校 閉講式

三月九日、太田西谷公会堂において国士館大学西谷学校閉講式が行われました。

二〇〇九年に西谷集落に開校した国士館大学西谷学校は、同大学の宮地忠幸先生(文学部史学地理学科)が講師として、学生共々農業体験や西谷集落との交流など、様々な形で集落に活性化の息吹をもたらしてきました。



▲ 宮地 忠幸 先生

開校以来、大学生との交流は今年で十年目。学生と住民との心の繋がりも密となり、回を重ねるごとに住民間の絆も深まったと、集落の皆さんが口にしていました。

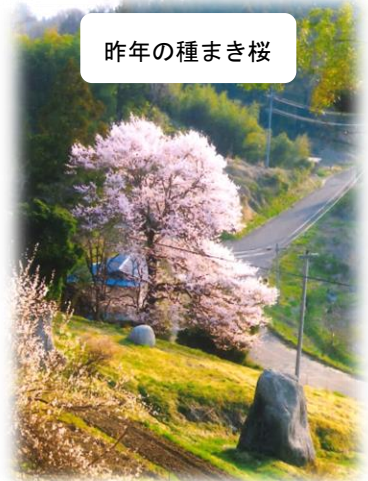
今後は、過去十年間の西谷の地域活動を振り返り、足腰の強い集落づくりを進めて下さることを期待いたします。



▲ 宮地先生と学生、西谷集落の皆さん

桜情報

四方北(よもぎた)の種まき桜



神代の昔から日本では稲作が盛んで、水苗代・折衷苗代・畑苗代と、それぞれの家独自の苗づくりが行われていました。

昭和二十年代後半から三十年頃までは折衷苗代が考え出され、ほとんどの家では、その方法での苗づくりが行われていました。折衷苗代(せつちゅうなわしろ)とは、種もみを池等に浸し発芽させ、苗代に蒔く方法です。

気象関係の情報が発達していない時代、自然の営みを目安としていました。その時期にこの桜が咲き、集落の方々は一斉に農作業に入り、そこで目安としていたのが写真の「四方北の種まき桜」ということです。推定樹齢は約八十年で枝振りは見事なものです。

例年の見頃は四月十日前後ということですが、今年は暖かいため開花が早まるかもしれません。里山を桜が彩りを添

える時期、足を運んでみてはいかがでしょうか。

〈お問い合わせ先〉

木幡字四方北(農家民宿 よもぎた)

電話 四六一四〇〇九

武藤一男(いちお)まで

隠れ文化財

伴助兼(とものすけかね)の堰



▲ 堰の全貌



水神



太田寺坂行政区を流れる、馬洗川流域大久保山内に堰があり、下方の田畑(湯在子地内約二町五反歩)に引水してあります。

水の取入口付近には石碑があり、水神様が祀られています。以前は二つあった石碑の一つには「嘉永四年三月吉日」と刻まれており、そしてもう一つの石碑は、

残念ながら地表の変化等で落下してしまいい方知れずとなつていますが、「伴助兼」と刻まれていたそうです。

今から二百年も前に、民のためにと堰を造ろうとした発想と技術の高さには頭が下がります。

水路入口付近の石積は、空積であるが故、一部壊れかけてはいますが、昔の面影は未だ残っています。

地域の人々が、今も昔と変わらず田畑を耕しているのも、先人の知恵と技があつてこそ。この貴重な遺構を後世まで残して欲しいものです。

お友達を誘って始めませんか

いきいき百歳体操普及講座

第六号で紹介した「いきいき百歳体操」を各集落で広めるため、二月二十五日から二十七日の三日間にわたり、各地区で「いきいき百歳体操普及講座」が開催されました。東和保健センターでは三十二名・戸沢住民センターでは二十名・木幡住民センターでは四十二名と、計百名近くの住民が参加しました。

講座は、高齢福祉課より介護予防についてのお話と、快フィットネス研究所で運動指導士をされている吉井雅彦さんを講師に、体操の仕方や効果などをわかりやすく教えていただきました。

高齢者が、週に一回いきいき百歳体操を続けた場合、三ヶ月で効果が出始めるそうです。

講座の中で見せていただいた映像では、高知県の九六歳の女性が五メートルを歩行する際、以前は九秒位かかってゴールしていたのが、「いきいき百歳体操」を週に二回・三か月続けたところ、三秒ちよつとでゴールし、小走りができるようになっていました。

「継続して続けることが大事」と吉井さんはおっしゃっていました。

体操に取り組む仲間三名以上を募り実施届を提出すると「いきいき百歳体操」と「ほんとの空体操」のDVD・CDを市から提供していただけます。

介護予防のため、自分のために、いきいき百歳体操を始めませんか？

快フィットネス研究所 吉井雅彦さん

▼ 高齢福祉課より介護予防の話

